

平成25年2月14日
於
府中市立教育センター

平成25年第2回

府中市教育委員会定例会会議録

府中市教育委員会

平成25年第2回府中市教育委員会定例会会議録

- 1 開 会 平成25年2月14日(木)
午後1時30分
閉 会 平成25年2月14日(木)
午後2時30分
- 2 会議録署名員
委 員 齋 藤 裕 吉
委 員 浅 沼 昭 夫
- 3 出席委員
委員長 崎 山 弘 委員長職務代理者 齋 藤 裕 吉
委 員 村 越 ひろみ 委 員 松 本 良 幸
教育長 浅 沼 昭 夫
- 4 欠席委員
な し
- 5 出席説明員
教育部長 吉 野 寿 一 文化スポーツ部長 後 藤 廣 史
教育部副参事兼指導室長 文化スポーツ部次長兼生涯学習スポーツ課長
小 椋 孝 町 田 昌 敬
総務課長 澁 谷 智 文化振興課長 酒 井 利 彦
総務課長補佐兼学校耐震化等推進担当副主幹 ふるさと文化財課長 江 口 桂
月 岡 敏 浩 美術館副館長 山 村 仁 志
学務保健課長 中 村 孝 一
学務保健課長補佐 市 川 直 次
給食担当副主幹 須 恵 正 之
指導主事 国 富 尊
指導主事 山 本 勝 敏
指導主事 鳥 居 夕 子
- 6 教育委員会事務局出席者
総務課係長 熊 坂 奈 美
総務課主任 山 本 正 芳

議 事 日 程

第1 会議録署名員選定について

第2 会期決定について

第3 議案

第6号議案

府中市立学校長及び副校長の任命内申について

第7号議案

平成25年度府中市美術館企画展観覧料について

第4 報告・連絡

- (1) 寄付に対する感謝状の贈呈について
- (2) スポーツ祭東京2013 普及啓発事業「フォークダンス交流会」の実施について
- (3) 企画展「かわいい江戸絵画」の開催について
- (4) ふるさと府中歴史館特別展「空中写真から見た府中の遺跡」の開催について

第5 その他

第6 教育委員報告

午後1時30分開会

○委員長（崎山 弘君） ただいまより、平成25年第2回府中市教育委員会定例会を開会いたします。

_____ ◇ _____

○委員長（崎山 弘君） 本日の会議録署名員は、齋藤委員と浅沼委員にお願いいたします。

_____ ◇ _____

○委員長（崎山 弘君） 会期は本日1日といたします。

_____ ◇ _____

○委員長（崎山 弘君） 本日は、議案が2件ございます。このうち、第6号議案は人事案件ですので、非公開扱いとしてよろしいでしょうか。

（「はい」の声あり）

_____ ◇ _____

◎第6号議案 府中市立学校長及び副校長の任命内申について

（以下、非公開会議により非公開）

午後1時32分中断

午後1時47分再開

_____ ◇ _____

○委員長（崎山 弘君） それでは、定例会を再開いたします。傍聴希望者がおります。許可してよろしいでしょうか。

（「はい」の声あり）

○委員長（崎山 弘君） 傍聴の方に申し上げます。大変お待たせいたしました。教育委員会は1時半から開会しましたが、本日の第6号議案が人事案件でしたので、非公開で行わせていただきました。

ただいまから公開で再開いたします。

_____ ◇ _____

◎第7号議案 平成25年度府中市美術館企画展観覧料について

○委員長（崎山 弘君） それでは議案の審議に入ります。第7号議案の朗読をお願いいたします。

（事務局朗読）

○委員長（崎山 弘君） 説明をお願いします。

○美術館副館長（山村仁志君） それでは、ただいま議題となりました第7号議案につきましてご説明いたします。平成25年度府中市美術館企画展の展覧会名、期間、観覧料につきまして、お手元の資料のとおり、記載のとおりでございます。

1番、福島県立美術館の協力を得て、1人のコレクターの目を通じて、日本近代洋画の歴史と魅力を紹介する「河野コレクション展」。2番、マスコットキャラクター「ばれたんとむら田」が所蔵品と絵の見方をガイドする「いたずらばれたんー絵の国は大きわぎ」展。3番、近代デザインの父と言われる19世紀イギリスのデザインをテキスタイル、壁紙、タイル、家具、ランプ、書籍などで展示します「ウィリアム・モリス展」。4番、1956年武蔵野市生まれで、現在東京芸術大学准教授で評価の高い現代作家の、多彩な画業を総合的に紹介する「オー・ジ

ェン展」。5番、桜の季節恒例の日本画展として洋風画、南画、狩野派など1800年代の日本の多様な絵画流派に焦点を当てる「江戸絵画の19世紀」展を開催いたします。

次に、2の団体料金につきましては、(1)の企画展の団体観覧料(20人以上)について、1人1回につき各展覧会個人観覧料の2割引とするものでございます。

次に、(2)メンバーシップ料金につきましては記載のとおりでございます。

(3)メンバーシップ団体料金(20人以上)につきましては、1人につきメンバーシップ料金の2割引とするものでございます。

以上で、説明を終わります。よろしくご審議くださいますようお願いいたします。

○委員長(崎山 弘君) 事務局の説明が終わりました。何かご質問ございますでしょうか。

○委員(松本良幸君) 美術館が対象であったかは定かではないのですけれども、以前、小・中学生に市内の施設のフリーパスのようなカードがあったかと思うのですけれども、これは現在でも継続されているのでしょうか。

○美術館副館長(山村仁志君) 現在も継続しております。

○委員(松本良幸君) ありがとうございます。それであれば、子どもたちが持っていれば、150円払わなくて見させていただけるということですね。

○美術館副館長(山村仁志君) はい。「学びのパスポート」という形で、毎年4月早々に各学校のほうに、1学年に配らせていただいておりますので、それぞれいつでも何回でも観覧できるカードです。

○委員(松本良幸君) ありがとうございます。150円、子どもたちにとっては大金なので、そういったカードをいただければ、身近に親しめるかなと思っておりますので、ぜひご継続をいただければと思います。ありがとうございます。

○委員長(崎山 弘君) ほかに何かご意見、ご質問ございますでしょうか。

○委員(齋藤裕吉君) ここに示されたのは一般料金だと。何と言うか市内外の方の入館料ということになると思いますけれども、市外の方の入館割合というのは、おおよそでいいのですけれども、どのぐらいいらっしゃるものですか。

○美術館副館長(山村仁志君) 毎回展覧会ごとに任意なのですがアンケートを行っておりまして、2階でアンケートを、それぞれの展覧会ごとに250~300の方がお答えいただくのですが、その集計によりますと、全体の平均で市内が約3割、市外が約7割という割合になっておりますので、市外の方が6割から7割はいらっしゃると思っております。

○委員(齋藤裕吉君) わかりました。

○委員長(崎山 弘君) ほかに何かご質問、ご意見ございますでしょうか。

○委員(村越ひろみ君) すみません。メンバーシップ料金を詳しく説明いただければと思うのですけれども。

○美術館副館長(山村仁志君) メンバーシップといえますのは、2,500円を払っていただくと、年間何回でも見ても大丈夫という形の制度をつくっております、全体の考え方としては、全ての展覧会を見た場合の一般料金合計の約8割というか2割引きで、団体という考え方で一応考えておりますので、そういう価格になっております。

○委員(村越ひろみ君) 市内外ともにこの金額、市外の人と一緒にですか。

○美術館副館長(山村仁志君) そのとおりです。

○委員(村越ひろみ君) わかりました。ありがとうございます。

○委員長(崎山 弘君) ほかに何かご意見、ご質問ございませんか。

では、お諮りいたします。第7号議案、平成25年度府中市美術館企画展観覧料について、決定することにご異議ございませんでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

○委員長(崎山 弘君) 全員異議なしですので、原案のとおり決定いたします。



◎寄付に対する感謝状の贈呈について

○委員長(崎山 弘君) 続きまして、報告・連絡に移ります。

報告・連絡(1)について、総務課、お願いいたします。

○総務課長補佐兼学校耐震化等推進担当副主幹(月岡敏浩君) それでは、資料1の寄付に対する感謝状の贈呈についてをご報告いたします。今回は1件でございます。

寄付の採納先は府中市立小柳小学校で、学校教育活動の一層の充実発展を図っていくために寄付されたものでございます。

寄付品は黒板拭きクリーナー15台、16万320円。寄付者は小柳小学校PTA会長・可知淳一様で、受領日は平成25年1月31日でございます。

PTAが中心となりまして、家庭などのベルマークを集めまして、学校と相談の上、寄付したものでございます。

府中市教育委員会表彰規程第10条の規定によりまして、感謝状を贈呈したいと考えております。

以上でございます。どうぞよろしくをお願いいたします。

○委員長(崎山 弘君) 何かご質問、ご意見ございますでしょうか。特にございませんか。

では、報告・連絡(1)について了承いたします。



◎スポーツ祭東京2013普及啓発事業「フォークダンス交流会」の実施について

○委員長(崎山 弘君) 続きまして、報告・連絡(2)について、国体推進室、お願いいたします。

○文化振興課長(酒井利彦君) 国体推進室長が公務出張中でございますので、調整担当課の文化振興課より、スポーツ祭東京2013普及啓発事業「フォークダンス交流会」についてご説明いたします。

本事業は、市内で開催いたしますスポーツ祭東京2013を広く市民の皆さんに周知し、開催機運を高めるとともに、国民体育大会のデモンストレーションとしてのスポーツ行事であるフォークダンス種目の普及啓発を目的に実施するもので、2月16日(土)にルミエール府中コンベンションホール飛鳥におきまして、フォークダンス団体の演舞と初心者向けの体験会を行います。なお、フォークダンスは民族舞踊全般を示すところのものでして、当日は市内フォークダンス団体のほか、府中市民謡協会及び府中市民謡連盟の皆様にもご協力をいただき、ゆりーと音頭等も踊っていただくことになっております。入場は無料となっておりますので、ぜひ会場にお越しいただきたいと思っております。

以上でございます。

- 委員長(崎山 弘君) 説明が終わりました。何かご質問、ご意見ございますでしょうか。
- 委員(齋藤裕吉君) 明後日のことですよね。会議としては今日この場に出てきたということですが、市民の皆さん等への周知というのは早くからしていただいていると理解してよろしゅうございますね。どうでしょうか。
- 文化振興課長(酒井利彦君) はい。すでに周知をさせていただいております。
- 委員長(崎山 弘君) ほかにどなたかご質問、ご意見ございますでしょうか。
- 委員(松本良幸君) 16日のことではないですが、デモンストレーション種目ということで、来年度の国体の中でこれを発表するスケジュールとか、そういうものが中に入ってくるものなのでしょうか。
- 文化スポーツ部次長兼生涯学習スポーツ課長(町田昌敬君) 国体の開催期間中、9月28日に総合開会式がございますけれども、国体が終わった後に全国障害者スポーツ大会がございます、その間のところで、10月5日に総合体育館でダブルダッチとフォークダンスが予定されております。
- 委員長(崎山 弘君) ほかにご意見、ご質問ございますでしょうか。よろしいでしょうか。それでは報告・連絡(2)について了承いたします。



◎企画展「かわいい江戸絵画」の開催について

- 委員長(崎山 弘君) 続いて報告・連絡(3)について、美術館、お願いいたします。
- 美術館副館長(山村仁志君) それでは、美術館からお手元のオレンジ色のチラシ、資料3によりまして、次回の展覧会についてご報告いたします。

3月9日(土)から5月6日(月・振替休日)まで企画展「かわいい江戸絵画」を開催いたします。チラシをお開きください。

「かわいい」という言葉をキーワードに、江戸時代の絵画の中に表現されたさまざまな感情に注目して見る展覧会を開催いたします。円山応挙の描いた子犬、歌川国芳の描いた猫といった動物の絵や、幼げな子どもたちの絵、さらに描き方のかわいらしさなどにも焦点を当てながら、日本の宝ともいふべきかわいい絵の歴史に迫ります。今回は全出品作品の展示替えを途中で行います。前期は桜の咲く4月7日まで。1日で展示替えを行いまして、後期は9日から始まり、5月の連休が最後になります。前後期2度見ていただくために、観覧料が2度目に半額となるサービスも行います。また、関連企画といたしまして、展覧会講座や20分スライドレクチャー、毎年恒例になっておりますが子どもたちを対象としたワークシートを利用した「かわいい探検隊!」、ワークショップを楽しめるさくらオープンテラス、桜の季節に開きます。

以上、周知のほうも今後行っていきますので、どうぞよろしくをお願いいたします。

以上です。

- 委員長(崎山 弘君) 説明が終わりました。何かご質問、ご意見ございますでしょうか。よろしいでしょうか。
- 委員(齋藤裕吉君) 大変おもしろそうな企画だと思います。期待しております。
- この作品は、府中市美術館の所蔵作品というのは1つも含まれていない、ほとんど借用という形の内容でしょうか。
- 美術館副館長(山村仁志君) 所蔵品も数点含まれております。この中でいきますと、真ん

中の6番の山口雪溪の布袋唐子図、これが所蔵品になっております。数点は当館の所蔵品でございます。

○委員(齋藤裕吉君) わかりました。

○委員長(崎山 弘君) ほかに何かご意見、ご質問ございますでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは、報告・連絡(3)について了承いたします。



◎ふるさと府中歴史館特別展「空中写真から見た府中の遺跡」の開催について

○委員長(崎山 弘君) 次、報告・連絡(4)について、ふるさと文化財課、お願いいたします。

○ふるさと文化財課長(江口 桂君) それでは、ふるさと文化財課から、ふるさと府中歴史館特別展「空中写真から見た府中の遺跡」の開催につきまして、お手元の資料4、チラシに基づきご報告いたします。

本市では、昭和50年以降、発掘調査により武蔵国府跡などの遺跡が見つかり、その歴史が着実に解明されてきました。しかし、それ以前の急速な市街地化によって消滅した遺跡も少なくありません。都市化される以前の府中の景観がわかる重要な資料として、昭和22年撮影の空中写真があります。この写真には、今日では見ることができない自然環境や遺跡などが克明に記載されています。今回の展示ではこの空中写真を通して、府中の幻の遺跡を紹介しています。会場はふるさと府中歴史館2階、公文書史料展示室です。会期は既に2月5日から始まっておりますが、6月2日(日)まで開催しておりますので、本日ご報告をさせていただきました。なお、2月11日広報でもお知らせしてございますが、ぜひご覧いただきますようお願いいたします。以上でございます。

○委員長(崎山 弘君) 説明が終わりました。何かご質問、ご意見ございますでしょうか。

○委員(齋藤裕吉君) チラシの表の右端のほうに「学芸員のこだわり展示」とありまして、これはおもしろいと思うのです。それはいいと思うのです、結構なことだと思います。どういふところにこだわっているのかなど。何か一言説明いただければ。あるいは今からチラシをつくる、もうできているものでも構わないのですけれども、その辺のアピール、どういったアピールをしようとしているのか、お願いします。

○ふるさと文化財課長(江口 桂君) 実は、この学芸員のこだわり展示は第1弾といたしまして、昨年多摩の札所めぐりということで開催させていただきました。通常の公文書史料、また郷土資料の業務とは違って、各学芸員が専門的に自分の知識をこのような形で公開させていただく場を設けさせていただいたものでございます。この第2弾の空中写真につきましても、遺跡の発掘調査をしながら、府中の昔の写真を自分で発掘して、それを自分の研究成果を発表する場としても、今回こだわって展示をさせていただきました。

また、多くの市民の方にいらっしやっただいていまして、実は私の家がここに写っているのだということで、いろいろな地域のいろいろな写真を展示しておりますので、そういう意味でも大変意味のある展示会となっております。

なお、この「空中写真から見た府中の遺跡」につきましては、たましが発表しております『多摩のあゆみ』という雑誌がございますが、そちらで特集号が組まれて、その中で今回担当

した市の職員が執筆をしております。

以上でございます。

○委員（齋藤裕吉君） わかりました。

○委員長（崎山 弘君） ほかに何かご意見、ご質問はございませんか。

私もこの写真展、多分インターネットかどこかで見たことがあるのですが、これはテーマが遺跡ではあるのですが、この写真には非常に興味があって、やっぱり写っている何軒かはわかるので、この会場ではパンフレットみたいなもの、この写真というのは多分著作権があるので、写真集のようなものは売っているのでしょうか。

○ふるさと文化財課長（江口 桂君） 残念ながら写真自体が国土地理院発行のものでございまして配付はできませんが、一応、個人的にということであれば、会場で写真撮影は許可されております。そちらで対応させていただいております。

○委員長（崎山 弘君） ありがとうございます。

ほかに何かご質問、ご意見ございますでしょうか。よろしいでしょうか。

では、報告・連絡（4）について了承いたします。

その他ですが、何かございますでしょうか。



◎教育委員報告

○委員長（崎山 弘君） では、教育委員報告に移ります。

では、各委員、報告をお願いいたします。

○委員（村越ひろみ君） では、村越から報告させていただきます。

1月29日（火）、PTA連合会が主催する市長との懇談会に参加してきました。後方から見させていただいたという形だったのですが、各学校からあらかじめ市長への質問事項を聞いておいたということで、精査していく中で答えを出していくというような会議でした。保護者の皆様からは多岐にわたって市への要望が出されておりました。また、フリー質問という時間が設けられていてちょっとびっくりしたのですが、その中で教材の公費負担の軽減で、教育の低下につながるのではという質問がありました。その保護者の方は、もしそれだったら私費負担を徴収してもいいのではないかという意見もあつたりして、今後の検討事項でもありますので、心強い意見だったかなと思いました。この会も長く続いている会なので、保護者の皆様へ市政のことを理解していただくいい機会ではないかなと思います。

2月5日、市町村教育委員会連合会の研修会に行ってきました。「発達障害の正しい理解から支援へ」というテーマでの講演会でした。正しい理解と支援がいかに大切かを感じました。また、質問の中で、ある校長先生から発達障害という言葉、言い方を変えたほうがいいのかという意見があり、講演者の佐々木先生も「確かにそうですね。皆様、知恵を絞って変えてほしい。」というお話がありました。私自身もそうだなと思いました。

2月7日、青少年問題協議会に参加しました。25年度の青少年健全育成基本方針が作成されました。今、社会環境が変化している中で、情報機器への対応、子どもたちが使う携帯電話とかスマートフォンとかの対応、いじめの未然防止と早期対応や虐待防止のための啓発への施策も新たに盛り込まれておりました。社会環境の変化に伴う基本方針が策定されたと思います。また、府中警察署、児童相談所における現状、府中市における教育の現状、教育長がお話され

たのですが、児童・生徒の現状も中学校、小学校の校長先生から報告がありました。

あと、情報としてですけれども、東京都の児童相談センター、教育相談センター、警視庁新宿少年センターが1つの場所に集約されて、この2月より子ども家庭総合センターとして新宿のほうだと思いますが、子どもと家庭を総合的に支援するという拠点になるということを知っています。

2月11日、多摩川駅伝の開会式に参加しました。まさにこの日はマラソン日和で、参加チームも最多の300チームということで盛大に行われていました。また、その日、郷土の森博物館のリニューアルに向けての解説説明を受けました。子ども目線と大人目線とが同時に向けられる工夫がしてあって、とてもいいなと思いました。学校の授業の中でも、子どもたちが活用していく上で、さらに実のあるものになるのかなと思います。

2月13日、昨日ですが、府中市立教育研究会の研究発表会に参加しました。発表や講演を通じて、小・中一貫教育の取り組みの必要性を改めて感じました。何より子どもたちのためにという講師の先生のお話、そして無理せずできることから学校区を中心とした風土の中で教育活動をしていくということ、それが府中版の取り組みとなればいいのではと思いました。

そして、とても印象に残った言葉の中で、講師の先生が9年間を野球の試合に例えて、いきなり7回表から引き継いでも指導者としては厳しいというお話があって、確かにそういうことだよなというのを感じました。小・中の連携をこれから充実させていただけたらと思います。

それと、3校の研究発表会がありました。二中、四中、四小の研究発表会でした。それぞれの学校で成果を出されているものと思いました。子どもたちが日ごろ受ける授業が、今の子どもたちに必要とされるさまざまなことに対応して、授業のカリキュラムや手法を研究しておられるということがとてもよくわかり、先生方のご尽力に改めて感謝する思いでした。ありがとうございました。

以上です。

○委員（浅沼昭夫君） それでは、浅沼が報告いたします。

1月20日、東京都退職校長会府中支部の新年会。続いて23日、ソロプチミスト東京府中の新年会に出席いたしました。教育の現状についての報告、そして学校教育への日ごろのご支援やご協力をいただいていることについてお礼を申し述べてまいりました。

1月25日、第二中学校の研究発表会に参加しました。特別支援教育の視点に立ってということで、言語活動を充実させるという実践研究の成果を公開授業の中で感じることができました。

1月26日（土）でございますけれども、14時から、府中市陸上競技場で行われた東京駅伝の練習を参観しました。まだ練習を多く重ねていないという状況でしたので、明星中学校を含めた市内12校の選手には、表情にかたさが見られましたけれども、今後練習を重ねていくにしたがって、お互いに打ち解け、理解と協力が深まるものと思っております。当日はより成果が期待できるという監督のお話がありましたので、楽しみにしております。また、休日にもかかわらず指導していただいている校長先生方、顧問の先生方、指導主事の先生方にも感謝をいたしたいと思います。

ちなみに、第4回中学生東京駅伝は3月20日、春分の日、味の素スタジアムで開催される予定でありまして、後ほど協議会のほうで詳しいご案内があろうかと思っております。

1月29日(火)、赤十字奉仕団の新年会に出席した後、グリーンプラザで行われましたPTAと市長との懇談会に参加しました。従来と違った形式で進められました。幾つか個別の事例についての意見を求められ大変苦慮しましたが、健全育成の課題解決の難しさについては共有できたのではないかなと思っております。その後、保護者からの個別相談もあり、学校と連携をしながら対応しております。学校も関係機関と連携をとりながら、熱意を持って指導に当たっているという報告を受けています。

また、先ほど村越委員からもお話がありましたけれども、補助教材等の保護者負担についてご意見をいただきました。今後の参考にしていきたいと思っています。

1月30日、府中第四中学校の研究発表会に参加しました。SGEの手法を活用して、主体、アセスメントテストを用いて、生徒の変容を実証的に示す研究が特徴的であったと思います。生徒の人間関係を円滑にしながら、学級学年の中に居心地のよい居場所を意図的につくることは、いじめ問題、あるいは不登校の未然防止の点でも有効であり、意義深い研究と実践であると感じました。今後も引き続いて実践されることを願っております。

2月1日、府中第四小学校の研究発表会に参加しました。「読むことの交流を通して」というサブテーマでありましたけれども、進んで伝え合う児童の育成に取り組んだ研究は、3年間の研究の集大成でありまして、低学年から高学年、そしてなかよし学級と発達段階に応じた工夫がなされ、児童がお互いに交流しながら自分の考えを深めていくという姿が、公開授業を通して見とることができました。

2月7日、市庁舎で開催されました青少年問題協議会に出席し、「府中における教育の現状について」という内容で、短時間でしたけれどもお話をまいりました。

2月10日(日)、芸術劇場どりーむホールで行われました、東京都小学校音楽研究会、第49回合唱祭を参観いたしました。府中市では新町小学校の児童が合唱を発表いたしました。新町小学校もそうでありましたけれども、どの地区の小学校も大変質の高い、レベルの高い合唱を披露しておりました。

最後ですが、2月11日、建国記念の日、多摩川駅伝の開会式とその後に行われました中学女子の部のスターターを務めてまいりました。その合間を見て、郷土の森博物館を視察いたしました。府中市の歴史や自然について、常設展示室、特別展示室などの工夫を凝らした展示方法、あるいはテーマ設定で大変充実しておりました。小・中学校の教育課程が大変窮屈になってきておりまして、そういう中でも、今後児童・生徒の社会科学などの教科学習、あるいは学校行事や総合的な学習の時間などの体験学習、加えて児童・生徒の個人研究、あるいは先生方の研修等にさらに活用を広げていくことが課題であるということを実感いたしました。その後、日吉体育館の芝生を会場に、例年実施されている青少対の行事でありますけれども、一地区、九地区、浅間地区合同のイベント、凧揚げ大会に出席して、挨拶を申し上げてきました。

以上であります。

○委員(松本良幸君) それでは松本よりご報告させていただきます。

まずは研究発表ですが、1月25日、第二中学校、1月30日、第四中学校、2月1日、第四小学校へ伺いました。各校とも校長先生を中心に意欲的に指導技術向上のために研究を重ねておられたと思います。特に第四中学校で取り組んでおられた「グループ・エンカウンター」の手法については、生徒たちの積極的な発言・行動を引き出し、自己理解や他者理解を導いて

いる部分に興味を持ちました。

また、昨日の2月13日は府教研研究発表にも出席させていただき、小・中一貫教育を主題に、理想論ではなく今現在の環境で実践可能な具体的な取り組みを行っていることを知ることができました。

1月29日はPTAと市長との懇談会を観覧してきました。高野市長就任後、初めての懇談会でしたが、これまでは実現できなかったフリートークの時間も用意され、今まで以上に市長の方針や人柄を理解できたのではと思います。また、教育や施策に関する質問では、浅沼教育長、吉野部長をはじめ、担当の皆様が丁寧にご説明くださり、保護者の皆様も満足されていたと感じました。

2月5日は、東京都市町村教育委員会連合会による「発達障害の正しい理解から支援へ」の講演会に参加してきました。講演では、発達障害は決して障害ではなく、発達の度合いが大多数の人と比べてまちまちなだけで、治すのではなく理解してあげることが、本人や周りの人間にとって重要なことであるということを教えていただき、今までの考え方を軌道修正してくれるとてもよい講演でした。

2月11日は、府中駅伝競走大会の開会式に出席してまいりました。天候にも恵まれ、府中多摩川かぜの道を走り抜ける選手の雄姿がすばらしかったです。また、スタート後は郷土の森博物館のリニューアル状況について館長・学芸員より説明を受けました。コレクションを展示するだけでなく、来館者がファイルをめくったり、レプリカを触ったりしながら、歴史を身近に感じられるよう努力・工夫されていることがよくわかりました。

また、委員としての参加ではありませんが、本宿小学校、日新小学校、第九小学校の道德地区公開講座へ参加してまいりました。その中でも、第九小学校で行われた講演は、さきの大震災で被災した宮城県利府市の小学校へ派遣された養護教諭による被災地の子どもたちの状況や、なぜ自分が支援に向かったのかとの心情を、写真を使いながらわかりやすくお話をいただきました。全校生徒と一緒に話を聞く形式の講演会でしたので、保護者の参加も特別に多く感じられ、公開講座としてとてもよい取り組みであったと思います。

以上で、報告を終わります。

○委員（齋藤裕吉君） それでは齋藤より報告をさせていただきます。時系列で報告をいたします。

1月25日（金）は、私も府中第二中学校の研究発表会に出席いたしました。全教科領域で言語活動を推進するという、今、中心的な学校の中の課題に正面から取り組んだ研究だったと思います。各授業、先生方は大変熱心に指導していらっしゃるって、生徒たちの意欲的に学ぶ姿が見られました。

ここで1つ感心したのは、先生方の板書がとてもきれいだなと。中学校の先生の板書は、昔はどうかと思う感じが強かったのですけれども、とてもしっかりと気持ちを込めて黒板を使っているという印象を持ちました。

1つ、せっかくの発表だったのですけれども、参加者がもっと多ければなという思いを持ちました。

1月30日は、府中第四中学校の同じく研究発表会に出席いたしました。構成的グループ・エンカウンターというのは、中学校のうちなのですけれども、小学校でも大いに活用できる手

法だと思うのです。四中では非常に上手に、しかも熱心に、系統的に指導に生かしていらっしやっただけですけれども、小・中連携の視点からなども踏まえて、小学校の先生方も大勢来てくだされば非常に勉強になるのではないかなという思いを持ちました。やっぱり四中でも参加者の数はもっといいのではないかなという思いを持ったものですから、今後は中学校の研究発表会というのは、どうしても参加者の数が少ない。もちろん子どもたち、生徒の指導等があつてなかなか学校を離れにくいという事情があるのでしょうけれども、今申し上げたように小・中連携の視点なども踏まえれば、小学校の先生方がもっと来てもよいと思うし、せつかくの市の研究協力校としての発表ですので、普及していきなという思いを持ちました。

2月1日は、私も府中第四小学校の研究発表会に出席いたしました。ここは先ほどからお話にありましておりでございます。特に交流活動というのは、新しく学習指導要領の国語の学習プロセスに言葉としても入ってきたということで、それを取り上げた意義ある研究だったなと思います。

2月5日は、私も東京都の市町村教育委員会連合会の研修会に出席をいたしました。今後、特別支援教育の問題を考える際に、大変役に立つお話をお聞きすることができました。

2月11日(月)には、府中駅伝の競走大会ということで私も出席をして、見学をさせていただきました。今回はコースの交通規制がきちんとできていて、安心してレースが展開できていたなということが、特に私の印象でありました。その後、郷土の森博物館の中の見学をさせてもらいました。館長、学芸員さん、文化スポーツ部長のご案内で、館内と梅まつりの見学ということで、たびたび足を運んでいるつもりなのですが、ご案内いただくとなるほどと思うことがいろいろ見つかりましてよかったなと思います。

私は小学校勤務時代に、子どもたちを引率してきて、館に入る手前で、今日はどんなものが見られるのだろうかという期待感というか、わくわく感というのでしょうか、これが大人ながら毎回あるのですけれども、そういう思いを今回も入るところで感じました。やっぱり博物館とかそういったところというのは、好奇心とかわくわく感というか、こういったことをずっと引き出すような入り口というのでしょうか、入り方ができるのであればいいなという思いをしました。

以上でございます。

○委員長(崎山 弘君) それでは最後、崎山から報告いたします。

私は平成元年から武蔵台小学校の学校医を務めておりますが、その関係で1月29日(火)、学校公開日にあわせて開催された学校保健委員会で、「ゲームについて」というタイトルで講演をしてまいりました。このタイトルは学校側から要望されたものです。ゲームは子どもたちに悪い影響を与えている意味の象徴として、「ゲーム脳」という言葉が使われることがありました。調べてみるとゲーム脳とは、2002年に出版された『ゲーム脳の恐怖』という書籍で使われている言葉で、「ゲームをすると脳に異常が起こる」という内容でありましたが、医学的には何も証明されている言葉ではなく、当時流行していたテレビゲームと、社会的に問題児とされる子どもを結びつけた大衆受けをする造語であり、ゲーム脳という言葉に医師として説明するような内容は全くありませんでした。しかし、テレビゲームやタブレット型パソコン、インターネット、オンラインゲーム、メールやラインなどの親子の生活の中に、電子機器を使うゲームや情報端末が深くかかわっていることは事実であり、子どもたちの生活の中での対応について

見直しが必要になってきました。

結論的に言えば、親子ともどもネットとメディアに奪われている時間を取り戻すこと、つまり家族内での「人間関係の構築」に時間を費やすことの大切さを話してまいりました。ゲームの世界では欠如している「人間関係」、つまり家族内で会話をすること、触れ合うこと、一緒に楽しむこと、一緒に苦勞することが重要であるということです。

2月5日の火曜日に、ここ府中市教育センターで「学校での急病時の対応について、アナフィラキシーショックへの対処法など」というタイトルで、市内各小・中学校の校長先生、養護教諭、保育所の担当者の方々にお話をさせていただきました。これは昨年12月に、隣の調布市で起こった学校給食によるアナフィラキシーでの死亡例を鑑みて、学校での急病時への対応を再確認してもらいたいという意図で行いました。

食物によるアナフィラキシーが原因での死亡例は、日本国内で大人も子どもも含めて、年間毎年5人ほど見られます。学校給食での死亡例は、1988年に札幌市で発生したそばアレルギーの死亡事故以来と思われま

す。このような事故を避けることができるように検討することと並行して、ダブルチェックなどを徹底しても事故を皆無にすることはできないと想定して準備することも大切です。この事故のように10年、20年に1回しか発生しないような重大なものは、一度失敗した人が二度と失敗しない対応をしたとしても、次の事故が同じ人に当たる確率はほとんどゼロなので事故は防げません。一度も事例に遭遇していない人が適切に対応できるようにすることが求められ、それを可能にするのが訓練です。特に今回のアナフィラキシーのような事例はめったに出遭うことはありません。2月5日の私の話を直接聞いた人が、実際にアナフィラキシーの対処を行うことはまずないでしょう。ですから、教えることができる人をつくるのも訓練の一部です。今回アナフィラキシー対応用のエピペンという医療器具の練習用キットを3本、教育委員会事務局に貸与させていただきました。医療器具ではありますが、学校の教職員が使うことは医療行為に当たらないという通知も文部科学省から出ております。各学校で全ての教職員の方が訓練をして、その方々がいずれまた誰かに教え伝えて、その連鎖が続く中で、いざというときに対応できる人がいつか子どもを助けることができると考えます。一度訓練した人は使い方も難しくないと実感できると思うので、ぜひ今後も継続して研修していただきたいと考えて行いました。

私からの報告は以上です。

それでは、これをもちまして、平成25年第2回府中市教育委員会定例会を閉会いたします。

どうもお疲れさまでした。



午後2時30分閉会